

青年部・女性部

「キッズインターンシップ事業」実施

～小中学生産業界体験～

神奈川県商工会青年部・女性部連合会

神奈川県の県青連（会長・石原孝紀）と女性連（会長・佐藤優子）は、平成十六年度事業として、合同で「キッズインターンシップ事業」に取り組みました。

実施に向けて、十五年度より講習会、合同ブロック会議と委員会を何度か開催し、準備を進めてきました。

講習会では、先進事例として野村富山県青連元会長を講師に招き、七年間実施した「小中学生産業界体験事業」や「ベンチャーキッズチャレンジ」と名づけた経済教育事業について講演していただきました。その中で野村氏が「子供たちに商売のおもしろさを伝えたい」と主張されたことがとても印象的でした。

当県連でも、子供たちにさまざまな職業を体験させ、働くことの大切さ・楽しさを学んでもらおうと、各ブロック内でモデル商工会地区を決めて、職業体験や番組制作体験などを実施することとし、具体的な項目

について意見交換を行いました。

検討した結果、モデル商工会では、学校との日程調整を行い、青年部員や女性部員の事業所はもちろんですが、幅広く体験できるように、図書館・郵便局・幼稚園や動物病院・牧場などにも受け入れをお願いしました。

葉山町商工会（湘南ブロック）



平成十六年七月八日～九日、の両日、南郷中学校二年生七八名が参加。三回の事業所で実施しました。

精肉店またはお肉屋さんでシ

ユウマイのパック詰めやコロッケ作りをした後、自分たちで作った商品販売する体験をした生徒からは、「予想以上にお客さんが来て、コロッケ

ケを詰めるのが大変でした。自分が作ったコロッケを渡す時、ありがとうと言う人、何も言われないで立ち去る人もいて、何も言われないと悲しい気持ちになりました。以前は自分も言わなかったことに気がつき、職場体験の終わった次の日からは「ありがとうございます」と言おうようになりました」と感想をいただきました。

相模湖町商工会（県北ブロック）



平成十六年八月六日、教育委員会を通して公募した町内中学校一・二年生十二名は、パンの製造工場と店舗を訪ね、パンが製造されて販売されるまでの過程を取材し紹介する番組の制作体験をしました。

カメラマン、ディレクター、レポーターなど役割分担を決め、カメラやマイク、フォンの扱い、レポートの仕方などを教えてもらい、企画・絵コンテなどを作りました。最初は、緊張気味だった生徒たちも、時間がたつにつれて自分の役割をしっかりと果たしてくれました。

真鶴町商工会（県西ブロック）

平成十六年八月二十五日、真鶴小



学校五・六年生の六名が参加の産業である「干物」の加工工程や販売について取材し、企業紹介のビデオ番組制作体験をしました。

ビデオ制作に興味がある生徒が多く、役割分担を決める時には積極的に手が上がり、機材の操作レポートの様子は、小学生とは思えない真剣なまなざしで取り組んでいたのが印象的で、活気のある体験事業となりました。

「体験後、子供たちがお店に遊びに来てくれるようになり、交流が続いています」という嬉しい報告もあります。

ビデオで製作した番組（県西および県北ブロック）については、さがみねっとTV（www.saganitv）で配信中です。

伊勢原市商工会（西湘ブロック）

平成十六年十一月十七日、中沢中学校二年生二六名を対象に、洋品店や石材店など、八事業所で実施しました。

受け入れ事業所からは、「リーダーが中心となり積極的に行動してくれました。POP製作では、細かい指



示はしませんでした。制作した内容には驚きました。

「大谷石外柵の取り外し、取り壊し、残土処理などの体験で、スコップの持ち方や一輪車の使い方など興味深く熱心に取り組んでくれた。疲れたと思いますが、元気で意外と力があるのには驚いた」（石材店）などの感想をいただきました。

愛甲商工会（県央ブロック）



平成十六年十一月十八日、愛甲中原中学校二年生、一四名を対象に、五事業所で受け入れられました。

役割や青年部・女性部の活動について説明会を行った後、各事業所へ移動し職業体験をしました。建設業での重機操縦や土木作業、ペン立てやベンチの製作、精米体験など貴重な体験をし、全員から参加してよかつ

たとの感想をもらいました。

* *

平成十七年二月十六日には、県下商工会青年部長・女性部長で事業報告会を開催し、当日の苦労話や意見交換を行いました。

その中で、「モデル商工会へ依存する部分は多く、各商工会の特色が出せなかった」「受け入れ側の問題では、募集に実施日や人数制限があり残念だった」「子供たちが対象なので、女性部員の協力は不可欠であった」「この事業を継続していきたい」という意見があがりました。

実施した地域からは、それぞれに高い評価をいただきました。今回の事業は初めての試みで、受け入れ企業数や参加数など小規模の実施となりましたが、受け入れ事業所と参加した小中学生は、お互いにより経験となり、意義のある事業になりました。

商売の楽しさを伝えられたかどうか、疑問が残りますが、人とのつながりや社会人としてのマナーを身につけ、将来の職業について考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

また、子供たちを取り巻く環境が悪くなっている中、交流を続けていくことで、地域全体で子供たちを守っていくことにつながると思います。